



教育目標：やさしく かしく たくましく

❖ 点字教室(4年生)

9月10日(水)に4年生が点字教室を実施しました。姫路市で活動されている点訳グループ「ふれあい」より6名の方にお越しいただき、目の不自由な方の日常生活や様々な活動の様子を聞いたり、映像で見せていただいたりしました。また、グループの一人として活動されている全盲のAさんには、子どもたちからの質問を受けていただいたりしました。

その中でAさんが話されたことが心に残りました。

『点字ブロックや音響式信号が整備されているから大丈夫というわけではないのです。例えば盲導犬は色がわからないので、みんなが渡っていれば赤信号でも渡ってしまいます。また、点字ブロックの上にとめてある自転車を避けようとする、元の道に戻れなくなるのです。そんな時には「今信号が赤ですよ」とか「私の肩につかまってください」という皆さんの声かけや協力が必要なのです。』

いくら設備(ハード)が整備されていても、大切なのは周囲の人間の心配り(ソフト)なんだと強く感じました。

その後、各教室で点字について学び、実際に自分の名前などを点字器で点字を打つ練習をしました。名刺に自分の名前を点字で打ち、それをAさんに渡して読んでもらいました。自分の名前を呼んでもらった時は、みんなとてもうれしそうにしていました。



点字は63通りの組み合わせで表されます



点筆(てんぴつ)の持ち方も教わりました



根気のいる作業ですが上手にできました



自分の名前を呼んでもらえた！

❖ たいせつなこと

子どもたちが夏休みに書いてきた読書感想文を読む機会がありました。その中にとっても印象的な文がありましたので、一部を紹介します。

わたしは家で、家ぞくといっしょにごはんをたべたり、あそんだり、ぎゅっとだきしめてもらったりすると、体があたたかくなってうれしくなります。じぶんを大切にしてくれる人といっしょにいと、とてもほっとします。どうぶつも人も、だいじにされることが、一ばんしあわせなことだと思いました。

忙しい日々流され、様々な情報や価値観に翻弄され、何かを見失いがちな今日ですが、この文章は私に、人間にとって本当に大切なものは何か、我々大人が大事にしなければならないものは何かということを改めて思い起こさせてくれました。

この子が感じたような家族の温もり、そこから得られる心の底からの安心感が全ての子どもたちにもありますように、願ってやみません。お金や物の豊かさではなく、「自分が大切にされている実感」、心の豊かさを追求する人間でありたいものです。